

独自事業で初の米作り

鹿屋市シルバー人材センター

放棄地活用、販売も



稲の苗を植え付ける鹿屋市シルバー人材センターの会員ら
＝同市西被川町

鹿屋市シルバー人材センターが本年度、地域の耕作放棄地を活用する米作りに初めて乗り出した。会員の仕事を生み出し、農村環境の維持・保全を図り、収益は会員に還元して親睦を深める「一石三鳥」の効果を注したセンターが会員に米

作りの作業を依頼する形をとる。舞台となるのは、借り受けた同市西被川町の田んぼ約50坪。企画・立案段階から約30人の会員が参加しており、14日はこのうち約10人が苗を植え付けた。新たな費用が発生しないよう必要な農機具はそれぞれ自前のものを持参し、手際よく作業した。今後、管理作業などで人手が要する時は、さらに会員の参加を募る。収穫は10月を見込んでおり、販売してセンターの米作りを広くPRしたい考え。販売方法の詳細と会員に還元する内容については今後詰めるという。飛躍会の松下高明会長(75)＝同市池園町Ⅱは「センターの理念である『自主・自立、共働・共助』につながる活動だと思う。会員みんなで結束して取り組みたい」と話す。

2025年6月23日付11面

【問1】鹿屋市シルバー人材センターによる本年度の独自事業を次のア～エから一つ選びましょう。(エ)

- ア 庭や公園の手入れ・草刈り イ 家事や子育ての支援
ウ 墓の掃除 エ 耕作放棄地を活用した米作り

【問2】鹿屋市シルバー人材センターの課題を次のア～エから一つ選びましょう。(イ)

- ア 会員の拡大 イ 会員の就業機会の確保 ウ 会員の高齢化の抑制
エ 外国人の会員への対応

【問3】記事中ではこの事業を“一石三鳥”と表現しています。この事業により狙っている効果を三つ答えましょう。

- (会員の仕事を生み出すこと)
(農村環境の維持・保全を図ること)
(収益は会員に還元して親睦を深めること)

【問4】この事業で新たな費用を発生させないようにどのような方法を取り入れていますか。空欄にあてはまる語句を記事中から18字で抜き出しましょう。

(必要な農機具はそれぞれ自前の物を持参) する方法

【調べてみよう】あなたの住んでいる地域のシルバー人材センターについて、活動内容や課題を調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

耕作・放棄地(ほう・き・ち)＝耕作することをやめた農地。

維持(い・じ)＝そのままの状態を維持すること。

収益(しゅう・えき)＝利益を得ること。もうけ。

還元かん・げん)＝もとにもどすこと。

親睦(しん・ぼく)＝親しんで、仲よくすること。

就業(しゅう・ぎょう)＝職業・業務につくこと。

互助(ご・じょ)＝互いに助け合うこと。

手際良(て・ぎわ・よ)く

